

会議等議事要旨

会議等の名称	研究部倫理委員会	開催年月日	令和元年 8 月 21 日
開催場所 および時間	会議室 15時10分～16時10分	記録者	住友 日香
会議の出席者	橋口副院長、三ツ井臨床研究部長、宮崎小児科医長、阿部薬剤科長、山田看護部長、渡邊事務部長、島徳島文理大学教授、小谷鴨島支援学校教頭、牧研究員		
議 事			
<p>1. <u>長期療養型病院における中心静脈栄養施行患者の脂肪乳剤使用動向の後ろ向き調査</u></p> <p>阿部薬剤科長より研究概要について説明があり、対象及び方法を修正するというで次回繰り越しとなった。</p> <p>本研究は、中心静脈栄養施行患者への脂肪乳剤の使用動向を調査し、効果的な脂肪乳剤の使用を推進することを目的とする。</p> <p>橋口副院長：他にメーカーはありますか。</p> <p>阿部薬剤科長：以前は何社かありましたが、現在は1社のみです。</p> <p>橋口副院長：推進するデータが欲しいということですか。</p> <p>三ツ井臨床研究部長：どういった目的のために研究を行いますか。</p> <p>阿部薬剤科長：使用の動向を知りたいです。</p> <p>三ツ井臨床研究部長：エビデンスのことをいうと脂肪乳剤を使用した人としていない人を調べないとエビデンスレベルが上がりにくいです。</p> <p>阿部薬剤科長：比較するということですね。</p> <p>三ツ井臨床研究部長：例えばA群とB群のように、方法の欄にグループ分けを書いてください。何をしたいからどんなふうにグループ分けをする、と書けばわかりやすいです。明確にしてください。</p> <p>阿部薬剤科長：はい。修正します。</p> <p>島徳島文理大学教授：個人の利益・不利益の欄ですが、不利益は発生しないという文面は訂正したほうが良いと思います。</p> <p>阿部薬剤科長：わかりました。修正します。</p> <p>山田看護部長：調査期間の2年というのは、なぜ2年ですか。</p> <p>阿部薬剤科長：学会発表までを視野に入れています。</p> <p>三ツ井臨床研究部長：調査期間が2017年は間違っていないですか。対象者は2017年7月から2019年3月に入院をされているということですよ。</p> <p>阿部薬剤科長：はい。</p> <p>三ツ井臨床研究部長：では、『調査期間』を『調査対象期間』に修正してください。</p> <p>阿部薬剤科長：はい。修正します。</p> <p>渡邊事務部長：同意はホームページを見て頂いたことといただくということですよ。見ること</p>			

で同意を得るならば、同意書は必要ないのではないですか。

島徳島文理大学教授：ホームページを見た人は研究のことが詳しく分からないのではないですか。

阿部薬剤科長：評価項目などをホームページに掲載します。

三ツ井臨床研究部長：紙媒体では掲示しないのですか。

阿部薬剤科長：今のところホームページのみと考えています。

山田看護部長：外来などに紙媒体で掲示したほうがよいと思います。

阿部薬剤科長：わかりました。紙媒体でも外来などに掲示いたします。

三ツ井臨床研究部長：では、以上のことから次回繰り越しとします。

2. 神経筋難病病棟で病棟看護師が経験した患者家族との関わりにおける実態調査

小原看護師より研究概要について説明があり、アンケートの内容を修正するという条件付きで承認された。

本研究は、経験年数による井患者家族との関わりの実態を明らかにするためことを目的とする。

島徳島文理大学教授：アンケートへのお願いにある『看護師 35 名』は、定員に達さないといけな
いなどの圧力になるかもしれないので、載せないほうがよいです。

小原看護師：はい。修正します。

小谷鴨島支援学校教頭：同じくアンケートへのお願いにある『務める』は『努める』が正しいで
す。

小原看護師：はい。訂正します。

三ツ井臨床研究部長：成功・失敗体験と概要には書いていますが、アンケートにはどこの項目に
該当しますか。

小原看護師：項目Ⅲの『困った体験』や『うれしい体験』です。

島徳島文理大学教授：どのくらい困ったことだったのか、うれしかったことだったのか聞かれて
いる程度が分かりづらいです。

三ツ井臨床研究部長：アンケートを見ると 2 者択一のようなようですが、1 つしか選べないのですか。
両方を調査しないのですか

山田看護部長：最もうれしかった時とお最も困った時でも調査できますよね。

三ツ井臨床研究部長：今の調査では比較ができないですね。

小原看護師：修正します。

小谷鴨島支援学校教頭：困った体験をした後、どういう対処をしたかということは調べないので
すか。

三ツ井臨床研究部長：一緒に聞いてみるといいですね。項目のⅥをもっと膨らませてみてはどう
ですか。

島徳島文理大学教授：項目ⅣとⅧの内容をそろえるといいと思います。

小原看護師：はい。修正します。

島徳島文理大学教授：項目Ⅶの質問は家族に対してどう思ったかと聞くより、体験を通してかわ
ったことや学習したことを記入するようにするといいです。

小原看護師：わかりました。訂正します。

三ツ井臨床研究部長：では、以上のことを修正するという条件付きで承認します。

3. 神経・筋難病病棟看護師のデスカンファレンスに対する現状調査

森下看護師より研究概要について説明があり、アンケートの内容を修正するという条件付きで承認された。

本研究は、デスカンファレンスに対する現状・効果・看護師の思いについての現状調査を実施し、デスカンファレンスがどのような場になっているか、看護ケアに生かしているかを明らかにすることを目的とする。

三ツ井臨床研究部長：デスカンファレンスは病棟で行われているのですか。

森下看護師：はい。昨年からは病棟で行われています。

三ツ井臨床研究部長：アンケートの項目3のデスカンファレンスは病棟で行われているデスカンファレンスのことですか。

森下看護師：院内、院外を含めてです。

渡邊事務部長：項目3以降の選択肢のある質問は、選択肢の番号の記号が同じで分かりにくいので、変更してください。

森下看護師：はい。変更します。

小谷鴨島支援学校教頭：アンケートの質問8と9ですが順番が逆のほうがよいと思います。

森下看護師：はい。変更します。

三ツ井臨床：デスカンファレンスはどこの病棟でも行っていますか。3階病棟はやり方はいつも同じですか。

森下喜安吾氏：はい。体験を聞くなどです。

山田看護部長：アンケートの質問項目はどこから見つけましたか。

森下看護師：参考文献にある資料です。

山田看護部長：アンケートの質問7の「家族」の前に「患者の」と入れたほうがわかりやすいです。

森下看護師：はい。修正します。

三ツ井臨床研究部長：デスカンファレンスはなくなった全ての方に行っていますか。

森下看護師：はい。今年度は現在までに4例行っています。

小谷鴨島支援学校教頭：学んだこともアンケートに追加するといいいですね。

島徳島文理大学教授：考察で参考になると思いますよ。

三ツ井臨床研究部長：では、以上のことを修正するという条件付きで承認します。

4. パーキンソン病リハビリテーション入院患者への看護領域に関する満足度

山本看護師より研究概要について説明があり、アンケートのレイアウトを修正するという条件付きで承認された。

本研究は、レクリエーション活動導入後の患者への看護領域に関する満足度の変化についてのアンケート調査を実施することで、今後提供される看護ケアやレクリエーション活動の室につなげることを目的とする。

三ツ井臨床研究部長：今まで看護で、満足度調査は行っていませんか。

山本看護師：5週間入院でというのは行っていません。

山田看護部長：アンケートのレイアウトが見づらいです。

島徳島文理大学教授：幅を狭めたほうが見やすいですね。

山田看護部長：4 択の下にある線は必要ですか。線の間には丸印をつける可能性があります。

山本看護師：選択肢の文字のみに修正します。

島徳島文理大学教授：アンケートの最初に「○をお願いします。」とあるので、選択肢のみに丸印できるようなものの変えたいでしょう。

三ツ井臨床研究部長：では、以上のことを修正するという条件付きで承認します。

5. 神経筋疾患病棟における抑制カンファレンスの在り方について振り返る

細川看護師より、研究概要について説明があり、説明文書、アンケート内容を修正するという条件付きで承認された。

本研究は、アンケートを通して A 病棟における抑制カンファレンスの問題点について調査し、抑制カンファレンスの在り方について明らかにすることを目的とする。

山田看護部長：アンケートは直筆ですよ。対象者は気にしませんか。

細川看護師：様々なアンケートに普段から記入しているので、大丈夫かと思えます。

島徳島文理大学教授：ご協力のお願いに、記入した文章そのままを使わないという説明を付け加えるとよいと思えます。

細川看護師：はい。追加します。

小谷鴨島支援学校教頭：『課題』という言葉に変えたほうがよいと思えます。

細川看護師：はい。訂正します。

三ツ井臨床研究部長：アンケートの項目 6 は抑制カンファレンスに関係なく質問していますね。項目 6 のようなことが周知徹底できているとおもいますか、抑制を外していくステップがいつも踏めているか、などの質問にしてください。

細川看護師：はい。修正します。

三ツ井臨床研究部長：では、以上のことを修正するという条件付きで承認します。

6. KJ 法を通して考える神経筋疾患病棟における長期療養患者が満足する接遇について

植田看護師より、研究概要について説明があり、内容を練り直すということで次回繰り越しとなった。

本研究は、神経難病により長期療養している患者を対象にインタビューを行い、KJ 法を用いて患者が満足を得られる接遇についておきらかにすることを目的とする。

三ツ井臨床研究部長：KJ 法とは何ですか。

植田看護師：グループワークで主に使われる方法で、それぞれの意見を付箋に記入して、グループ分けします。

山田看護部長：KJ 法を行うには許可が必要だったかと思えます。正しいやり方を習得した人が必要です。

三ツ井臨床研究部長：KJ 法を参考にしたなどの文章に変更してください。

植田看護師：はい。変更します。

三ツ井臨床研究部長：『どんなことをしてくれたら嬉しいか』はコミュニケーションに関係ないです。希望する接遇ということなどで、コミュニケーションという言葉は無くしたほうがいいです。長期療養患者とタイトルにありますが、長期でない人と比較するなどであれば研究ではありません。具体的な質問にしてください。

植田看護師：はい。訂正します。

山田看護部長：接遇にしようと思ったきっかけは何ですか。

植田看護師：どんな言葉遣いが良いかと思ったのがきっかけです。

山田看護部長：言葉を発するときには、勢いや態度もあります。単に言葉遣いだけを質問するのは不十分ですね。

三ツ井臨床研究部長：言葉遣いなら、方言がいいか、標準語がいいか。言葉遣いよりも何度も様子を見に来てくれるのがいいかなどを聞けば良いです。口調が良ければ、納得されるかは別問題ですね。

植田看護師：はい。修正します。

三ツ井臨床研究部長：タイトルが研究内容に合っていないので、長期と他の比較など変更してください。

植田看護師：はい。変更します。

三ツ井臨床研究部長：では、以上のことから次回繰り越しとします。